

ヒメガマ

湖沼、ため池、河川、放棄水田などのいろいろな湿地に生育します。日本全国に分布し、また北半球に広く分布しています。高さは約2mになり、細長い葉をたくさん出して、広い面積に密生（みっせい）します。夏に円柱形の花序（かじょ）をつけます。花序の上部には雄花が集合し、下部には雌花が集合しています。秋になると雌花群が分解して「穂綿（ほわた）」とよばれる綿状になり、小さなたくさんの種子が風に乗って飛んでいきます。

ヒメガマによく似たガマも全国に分布しています。ヒメガマは雄花群と雌花群の間が空いていますが、ガマは雄花群と雌花群が接しているため、穂の形を確認することで2種の区別ができます。

富士市での現状

海に近い平地の川、水路、池などで確認されています。川や水路では、流れが緩やかなところに生育が限られています。滝川の下流や沼川の川岸で確認された生育地がその典型です。富士川左岸の河口近くの池や旧富士川町の砂防ダムにも群生しています。ガマもヒメガマと似た環境に生育しています。



(左) ヒメガマの生えている様子
(右上) ヒメガマの雄花群と雌花群
(右下) ガマの雄花群と雌花群

ヒメガマを確認したメッシュ

